

身近な話題をお寄せください。

カメラ・アイ

(秘書広報課・内線186)



「田子の浦に〜」、「ハイッ！」

泉西公民館で新春百人一首大会が開催され、中学生などがお正月の伝統行事を楽しみました。(1月11日)

会場いっぱいの期待と新作

新春恒例の陶磁器の見本市が、各地区の陶磁器工業協同組合ごとに行われました。(1月7~12日)



二十歳の再会、大人の誓い
成人式が文化プラザで行われ、753人の若者が決意も新たに大人の仲間入りをしました。(1月13日)



昔遊びで童心のひととき
妻木児童館で地元のお年寄りと子どもたちが、紙鉄砲やこまなど、昔ながらの遊びで楽しいひとときを過ごしました。(1月11日)



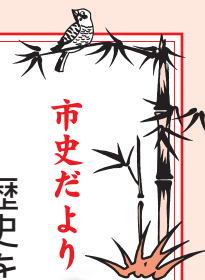
「席譲ります」

妻木幼稚園の園児が、市民バスに乗って公衆マナーを学ぶとともに、市内見学をしました。(1月15・16日)

聞く、見る、そして作る

泉中学校1年の生徒276人が美濃焼について学ぶ総合学習の一環で、抹茶茶碗の作陶体験をしました。(1月14日)





市史だよりふるさと歴史ウォーク 33

歴史をしのばせる

妻木陣屋跡と陣屋墓

妻木町新町

江戸時代の土岐市域は、幕府の直轄地（天領）と岩村藩領と遠山明智領と妻木領に分かれていて、妻木領は徳川氏の旗本である妻木氏が支配していました。

万治元年、参勤交代途中の妻木頼次が箱根で急死し、世継ぎが無かったため、お家断絶、廃城となり、領地の大部分は幕府に取り上げられ、わずかの領地が頼次の弟の幸広に与えられました。幸広以後、領主は江戸に常住することになったので、上郷に陣屋が置かれ、領主の代わりを務める代官が政務を執行しました。代官は、妻木家の分家である日東家（現在の日東信之氏の家）が代々務めました。

陣屋には屋敷、山、田畑、屋敷林があり、長屋門、高塀、石垣、庭園も備えていました。現在も井戸や立派な庭園、江戸城御殿瓦焼碑、山神碑などが残り、昔の面影を伝えています。瓦焼碑は元和八年（一六二二）に作



られたもので、この辺りでは最も古い石造物です。

日東家の西側の小道を奥へ歩むと、「陣屋墓」という標柱に出合います。そこは日東家の墓地です。日東家の先祖が眠る霊地であり、供養する場所であり、先祖の功績を後世に伝える場所でもあります。「正持院殿月潭正淳大禅定門」とある高さ二m二十九cmの堂々たる碑は、妻木氏初代領主、妻木彦九郎弘定の供養塔で、昭和六年に日東泉之進惟家が建立したものです。陣屋日東家は妻木氏の四代頼安の二男頼知が興した家ですが、その頼安の供養塔もあります。「聴泉院殿悦溪瑞禅大禅定門」とある碑がそれです。墓塔、道祖神、石仏なども多数あります。

陣屋と陣屋墓は、妻木氏・日東家・墓塔の変遷史を研究する上で大変重要な場所です。ふるさとの歴史を愛する人が厳肅な気持ちで訪れる所です。



クローズアップ

成人式典で誓いの言葉

加藤裕子さん（土岐津町）

今年も成人式典の会場となった文化プラザには、旧友との再会を喜ぶ姿、晴れ着姿でにこやかに写真に収まる姿など、新鮮で微笑ましい光景があふれていた。

この式典で、新成人代表として「誓いの言葉」を述べたのが加藤裕子さん。学校や職場などでの出会いに対する感謝の気持ちから始まった誓いの言葉は、さまざまなことへの挑戦と新しい出会いがもたらす自分自身の再発見を期待する思いで締めくくられた。

多治見工業高校を卒業後、陶磁器関連の企業に務めて今年で三年目を迎える彼女。重要な仕事を任せられることも多くなり、プレッシャーを感じること多い毎日に、専門学校に通う友達がうらやましいと思えることもあると言う。

しかし、「社会人として仕事をしているからこそ、違った見方・考え方もできるようになった」と自身の成長に満足と自信の表情を浮かべる。

今は週一回のバレエボールが楽しみだが、今年は今よりも好きなデザインを生かしてフラワーアレンジメントにも挑戦したいと今後の抱負を語ってくれた。